

(19) 日本国特許庁(JP)

再公表特許(A1)

(11) 国際公開番号

W02016/047266

発行日 平成29年4月27日(2017.4.27)

(43) 国際公開日 平成28年3月31日(2016.3.31)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード(参考)
A 6 1 B 1/00 (2006.01) A 6 1 B 1/00 3 0 0 A 4 C 1 6 1

審査請求 有 予備審査請求 未請求 (全 12 頁)

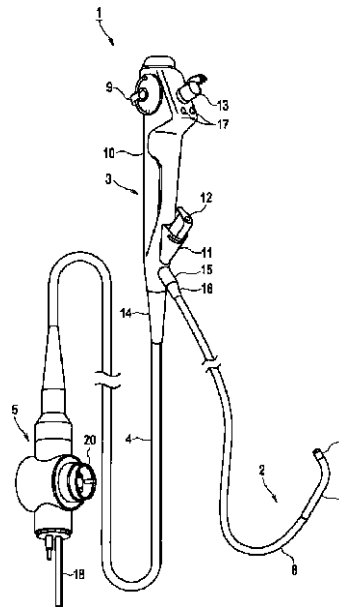
出願番号	特願2016-506394 (P2016-506394)	(71) 出願人	000000376 オリンパス株式会社 東京都八王子市石川町2951番地
(21) 国際出願番号	PCT/JP2015/071320	(74) 代理人	100076233 弁理士 伊藤 進
(22) 国際出願日	平成27年7月28日(2015.7.28)	(74) 代理人	100101661 弁理士 長谷川 靖
(11) 特許番号	特許第5933872号 (P5933872)	(74) 代理人	100135932 弁理士 篠浦 治
(45) 特許公報発行日	平成28年6月15日(2016.6.15)	(72) 発明者	藤谷 究 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリンパス株式会社内
(31) 優先権主張番号	特願2014-195590 (P2014-195590)	(72) 発明者	鈴木 辰彦 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリンパス株式会社内
(32) 優先日	平成26年9月25日(2014.9.25)		
(33) 優先権主張国	日本国(JP)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 内視鏡

(57) 【要約】

内視鏡1は、使用者に把持される把持部10を有し、第1の長手軸Xを備えた操作部3と、この操作部3から第1の長手軸Xに対して鋭角の所定の角度の第2の長手軸Yを有して延出し、被検体に挿入される挿入部2と、操作部3の先端側から第1の長手軸Xに沿った延長線上に第3の長手軸Zを有して延出し、外部機器に着脱自在に接続されるコネクタ部5が延出端に設けられたケーブル4と、を具備する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

使用者に把持される把持部を有し、第 1 の長手軸を備えた操作部と、
前記操作部から前記第 1 の長手軸に対して鋭角の所定の角度の第 2 の長手軸を有して延出し、被検体に挿入される挿入部と、
前記操作部の先端側から前記第 1 の長手軸に沿った延長線上に第 3 の長手軸を有して延出し、外部機器に着脱自在に接続されるコネクタ部が延出端に設けられたケーブルと、
を具備することを特徴とする内視鏡。

【請求項 2】

前記挿入部は、前記把持部を把持した前記使用者に正対する前記操作部の背面に離反した正面から前方側に延出していることを特徴とする請求項 1 に記載の内視鏡。 10

【請求項 3】

前記把持部には、処置具を挿入する処置具挿通部が設けられ、
前記挿入部は、前記把持部の前記処置具挿通部よりも先端側から延出していることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の内視鏡。

【請求項 4】

前記挿入部は、前記把持部の前記処置具挿通部と前記操作部の前記第 1 の長手軸に沿った方向に並設する位置から延出していることを特徴とする請求項 3 に記載の内視鏡。

【請求項 5】

前記操作部には、吸引バルブおよび内視鏡機能进行操作する操作部材が設けられ、
前記挿入部は、前記処置具挿通部、前記吸引バルブおよび前記操作部材と前記操作部の前記第 1 の長手軸に沿った位置から延出していることを特徴とする請求項 4 に記載の内視鏡。 20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、外部機器と接続されるケーブルを備えた内視鏡に関する。

【背景技術】

【0002】

従来から、生体の体内、構造物など被検体の内部の観察が困難な箇所を観察するために、被検体内に導入可能な内視鏡が、例えば医療分野または工業分野において広く利用されている。このような内視鏡には、撮像手段、照明手段などが設けられている。 30

【0003】

内視鏡は、撮像手段への信号の授受、照明手段への照明光の伝送などを行うための外部機器と接続されるケーブルであるユニバーサルコードが延設されている。なお、一般的な内視鏡は、ユニバーサルコードが操作部の長手方向に直交するように基端側となる上部側部から延設されている。

【0004】

これに対して、例えば、日本国特開 2002 - 58629 号公報には、操作部の長手方向と略同軸方向に挿入部が延設しており、鋭角で交叉するユニバーサルコードが延出した電子内視鏡が開示されている。 40

【0005】

しかしながら、日本国特開 2002 - 58629 号公報に開示された従来の内視鏡では、ユニバーサルコードが術者側に延出するため、外部機器の配置によっては検査時の取り回しが煩雑となって使用者に絡まったりして邪魔となってしまうという問題があった。

【0006】

そこで、本発明は、上記問題に鑑みて成されたものであって、その目的とするところは、外部機器に接続されるケーブルが使用者に対して邪魔とならないように取り回しが容易となる内視鏡を提供することである。

【発明の開示】

【課題を解決するための手段】**【0007】**

本発明の一態様の内視鏡は、使用者に把持される把持部を有し、第1の長手軸を備えた操作部と、前記操作部から前記第1の長手軸に対して鋭角の所定の角度の第2の長手軸を有して延出し、被検体に挿入される挿入部と、前記操作部の先端側から前記第1の長手軸に沿った延長線上に第3の長手軸を有して延出し、外部機器に着脱自在に接続されるコネクタ部が延出端に設けられたケーブルと、を具備する。

【0008】

以上に記載の本発明によれば、外部機器に接続されるケーブルが使用者に対して邪魔とならないように取り回しが容易となる内視鏡を提供することができる。

10

【図面の簡単な説明】**【0009】**

【図1】本発明の一態様の電子内視鏡の構成を示す斜視図

【図2】同、電子内視鏡の構成を示す側面図

【発明を実施するための最良の形態】**【0010】**

以下、図を用いて本発明について説明する。

なお、以下の説明において、下記の実施の形態に基づく図面は、模式的なものであり、各部分の厚みと幅との関係、夫々の部分の厚みの比率などは現実のものとは異なることに留意すべきであり、図面の相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれている場合がある。

20

【0011】

まず、本発明の一態様の内視鏡の実施の形態について、図面に基づいて、以下に説明する。図面は本発明に係わり、図1は電子内視鏡の構成を示す斜視図、図2は電子内視鏡の構成を示す側面図である。

【0012】

また、以下の説明では、気管支鏡と例示して説明するが、これに限定されることなく、各種内視鏡にも適用可能な構成である。

【0013】

図1および図2に示すように、本実施形態の電子内視鏡（以下、単に内視鏡と称す）1は、被検体に挿入される細長管状に形成された挿入部2と、この挿入部2の基端が接続された操作部3と、この操作部3の先端側から延設される内視鏡ケーブルであるユニバーサルコード4と、このユニバーサルコード4の先端に配設される内視鏡コネクタ5などによって主に構成されている。

30

【0014】

挿入部2は、先端側から順に、先端部6、湾曲部7、可撓管部8が連設されて形成され可撓性を備えた管状部材である。このうち、先端部6には、内部に撮像手段を備えた撮像装置である撮像ユニット、照明手段などが収納配置されている。

【0015】

湾曲部7は、操作部3の操作手段のうちの一つである後述の湾曲レバー9の回動操作によって上下2方向（UP - DOWN）へと能動的に湾曲させ得るように構成される機構部位である。

40

【0016】

なお、湾曲部7は、このタイプのものに限定されることはなく、上下方向に加えて左右方向をも含めた四方向（上下左右の操作によって軸回りの全周方向、UP - DOWN / RIGHT - LEFT）に湾曲し得るタイプのものであっても良い。

【0017】

可撓管部8は、受動的に可撓可能となるように柔軟性を持たせて形成される管状部材である。この可撓管部8の内部には、処置具挿通チャンネルのほか、先端部6に内蔵された撮像ユニットから延出し、さらに操作部3を介してユニバーサルコード4の内部へと延設

50

される各種信号線、光源装置からの照明光を導光し先端部 6 に配された照明窓から出射させるためのライトガイドなどが挿通している（ここでは、何れも不図示）。

【0018】

操作部 3 は、使用者が内視鏡 1 を使用する時に手によって把持する把持部 10 と、この把持部 10 の前面側の中途部に配設された処置具挿通部 11 と、各種内視鏡機能进行操作手段と、把持部 10 の前面側の上部に配設された吸引バルブ 13 などによって主に構成される。

【0019】

また、操作部 3 は、先端側に設けられて、ユニバーサルコード 4 の基端を覆ってユニバーサルコード 4 と接続される折れ止め部 14 と、把持部 10 の前面側において処置具挿通部 11 の下部側に設けられた筒状突部 15 に接続され、挿入部 2 の可撓管部 8 の基端を覆って可撓管部 8 と接続される折れ止め部 16 と、を有している。

10

【0020】

なお、操作部 3 に設けられる操作手段としては、例えば湾曲部 7 の湾曲操作を行う湾曲レバー 9、吸引操作のための吸引バルブ 13、撮像手段、照明手段などの各対応する操作を行うための複数の操作部材 17 などがある。

【0021】

処置具挿通部 11 は、各種の処置具（不図示）を挿入する処置具挿通口を備え、操作部 3 の内部で、分岐部材を介して処置具挿通チャンネルに連通する構成部である。この処置具挿通部 11 には、処置具挿通口を開閉するための蓋部材であって、この処置具挿通部 11 に対して着脱自在（交換可能）に構成される鉗子栓 12 が配設されている。

20

【0022】

ユニバーサルコード 4 は、挿入部 2 の先端部 6 から、この挿入部 2 内部を挿通して操作部 3 に至り、さらに操作部 3 から延出する各種信号線などを内部に挿通すると共に、光源装置（不図示）から光を伝達するライトガイドを挿通する複合ケーブルである。

【0023】

内視鏡コネクタ 5 は、外部機器のビデオプロセッサ（不図示）との間を着脱自在に接続する信号ケーブルが接続される電気コネクタ部 20 を側面部に有すると共に、外部機器である光源装置との間を着脱自在に接続する光源コネクタ部 18 などをも有して構成されている。

30

【0024】

ここで、本実施の形態の内視鏡 1 は、図 2 に示すように、ユニバーサルコード 4 が操作部 3 の長手軸 X（操作部 3 の中心軸 X の場合もある）に沿った中心軸（長手軸）Z を有して把持部 10 の先端から下方側（例えば、使用者が操作部 3 の把持部 10 を把持した状態において真下側となる鉛直下方側）に延出した構成となっている。即ち、ユニバーサルコード 4 は、操作部 3 の長手軸 X の延長線上に中心軸（長手軸）Z を有している。

【0025】

そして、内視鏡 1 は、直線状態の挿入部 2 がユニバーサルコード 4 の延出方向である操作部 3 の長手軸 X に対して 90 度未満となる鋭角の所定の角度 を有して交差する方向に中心軸（長手軸）Y が設定されて延出した構成となっている。

40

【0026】

さらに、直線状態の挿入部 2 は、使用者が操作部 3 の把持部 10 を把持した際に、操作部 3 の正対する把持部 10 の背面に離反する正面となる方向に向けて操作部 3 の長手軸 X に対して鋭角の所定の角度 を有して交差して把持部 10 から延出する中心軸 Y が設定されている。

【0027】

なお、挿入部 2 は、操作部 3 の把持部 10 の正面において、処置具挿通部 11 よりも先端側となる下方側から、この処置具挿通部 11 と操作部 3 の長手軸 X に沿って並設した位置から延出している。

【0028】

50

そして、操作部 3 は、吸引バルブ 1 3、複数の操作部材 1 7 および処置具挿通部 1 1 が前面側に配設され、操作部 3 の長手軸 X に沿った直線状の位置から挿入部 2 が前方へ延設されている。

【 0 0 2 9 】

以上のように構成された本実施の形態の内視鏡 1 は、ユニバーサルコード 4 が操作部 3 の下方側から延出するように配設され、挿入部 2 がユニバーサルコード 4 の延出方向に対して鋭角の所定の角度を有して交差した方向に延出する構成として、内視鏡検査時に外部機器に接続される内視鏡コネクタ 5 が延出端に設けられるユニバーサルコード 4 が使用者に絡まったりして邪魔となることなく、取り回しが容易となる。

【 0 0 3 0 】

以上に説明したように、内視鏡 1 は、外部機器に接続されるケーブルであるユニバーサルコード 4 が使用者に対して邪魔とならないように取り回しが容易となる構成となる。

【 0 0 3 1 】

さらに、内視鏡 1 は、使用者が操作部 3 を把持した際に、挿入部 2 が前方側に延出するため、挿入部 2 を横たわる被検者に対してアクセスし易くなり、内視鏡検査が行い易くなるという利点もある。

【 0 0 3 2 】

なお、本発明は、電子内視鏡 1 に限らず、リレーレンズ、イメージファイバなどを用いた内視鏡にも適用可能な技術である。

【 0 0 3 3 】

なお、上述の実施の形態に記載した発明は、その実施の形態に限ることなく、その他、実施段階ではその要旨を逸脱しない範囲で種々の変形を実施し得ることが可能である。

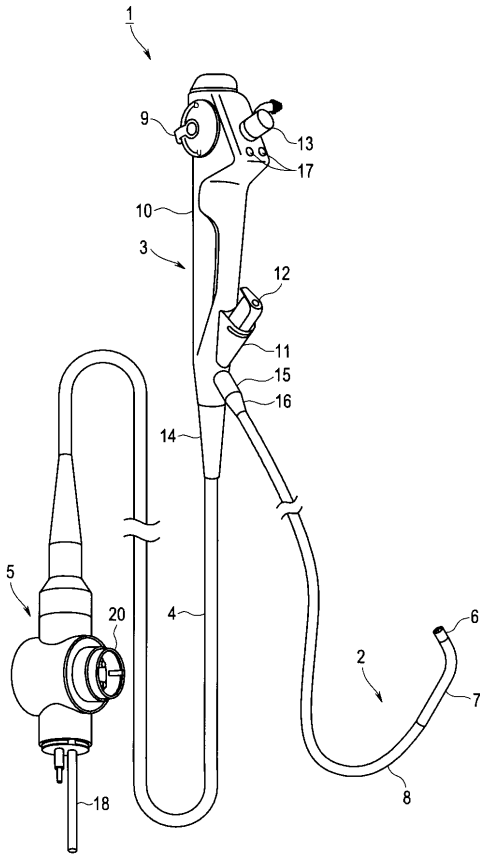
【 0 0 3 4 】

本出願は、2014年9月25日に日本国に出願された特願2014-195590号を優先権主張の基礎として出願するものであり、上記の内容は、本願明細書、請求の範囲、および図面に引用されたものである。

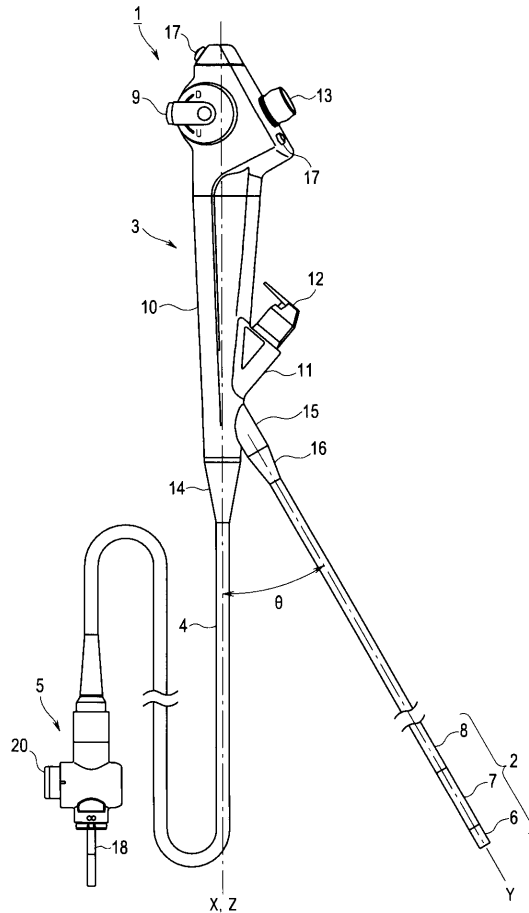
10

20

【図 1】



【図 2】



【手続補正書】

【提出日】平成28年2月5日(2016.2.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の一態様の内視鏡は、使用者に把持される把持部を有し、第1の長手軸を備えた操作部と、前記把持部に設けられた処置具挿通部よりも先端側において、前記操作部から前記第1の長手軸に対して鋭角の所定の角度の第2の長手軸を有して延出し、被検体に挿入される挿入部と、前記操作部の先端側から前記第1の長手軸に沿った延長線上に第3の長手軸を有して延出し、外部機器に着脱自在に接続されるコネクタ部が延出端に設けられたケーブルと、を具備する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

使用者に把持される把持部を有し、第1の長手軸を備えた操作部と、前記把持部に設けられた処置具挿通部よりも先端側において、前記操作部から前記第1の長手軸に対して鋭角の所定の角度の第2の長手軸を有して延出し、被検体に挿入される挿入部と、

前記操作部の先端側から前記第 1 の長手軸に沿った延長線上に第 3 の長手軸を有して延出し、外部機器に着脱自在に接続されるコネクタ部が延出端に設けられたケーブルと、を具備することを特徴とする内視鏡。

【請求項 2】

前記挿入部は、前記把持部を把持した前記使用者に正対する前記操作部の背面に離反した正面から前方側に延出していることを特徴とする請求項 1 に記載の内視鏡。

【請求項 3】

前記把持部には、処置具を挿入する処置具挿通部が設けられ、

前記挿入部は、前記把持部の前記処置具挿通部よりも先端側から延出していることを特徴とする請求項 1 に記載の内視鏡。

【請求項 4】

前記挿入部は、前記把持部の前記処置具挿通部と前記操作部の前記第 1 の長手軸に沿った方向に並設する位置から延出していることを特徴とする請求項 3 に記載の内視鏡。

【請求項 5】

前記操作部には、吸引バルブおよび内視鏡機能进行操作する操作部材が設けられ、

前記挿入部は、前記処置具挿通部、前記吸引バルブおよび前記操作部材と前記操作部の前記第 1 の長手軸に沿った位置から延出していることを特徴とする請求項 4 に記載の内視鏡。

【 国際調査報告 】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT		International application No. PCT/JP2015/071320
A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER A61B1/00(2006.01)i		
According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC		
B. FIELDS SEARCHED		
Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) A61B1/00-1/32, G02B23/24-23/26		
Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2015 Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2015 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2015		
Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)		
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 8-19507 A (Fuji Photo Optical Co., Ltd.), 23 January 1996 (23.01.1996), abstract; paragraph [0012]; fig. 1, 2 & US 5702349 A	1, 2
Y	JP 62-8727 A (Machida Endoscope Co., Ltd.), 16 January 1987 (16.01.1987), page 4, lower left column, line 1 to lower right column, line 5; fig. 1, 4 (Family: none)	1-5
Y	JP 2001-95747 A (Olympus Optical Co., Ltd.), 10 April 2001 (10.04.2001), abstract; claim 1; fig. 1 & US 6520908 B1	1-5
<input checked="" type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C. <input type="checkbox"/> See patent family annex.		
* Special categories of cited documents:		
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention	
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone	
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art	
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	"&" document member of the same patent family	
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed		
Date of the actual completion of the international search 17 September 2015 (17.09.15)	Date of mailing of the international search report 06 October 2015 (06.10.15)	
Name and mailing address of the ISA/ Japan Patent Office 3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915, Japan	Authorized officer Telephone No.	

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2015/071320

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 5-249384 A (Fuji Photo Optical Co., Ltd.), 28 September 1993 (28.09.1993), abstract; fig. 1 (Family: none)	5

国際調査報告		国際出願番号 PCT/J P 2015/071320									
A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC)) Int.Cl. A61B1/00(2006.01)i											
B. 調査を行った分野 調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC)) Int.Cl. A61B1/00 - 1/32, G02B23/24 - 23/26											
最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの <table border="0"> <tr> <td>日本国実用新案公報</td> <td>1922-1996年</td> </tr> <tr> <td>日本国公開実用新案公報</td> <td>1971-2015年</td> </tr> <tr> <td>日本国実用新案登録公報</td> <td>1996-2015年</td> </tr> <tr> <td>日本国登録実用新案公報</td> <td>1994-2015年</td> </tr> </table>				日本国実用新案公報	1922-1996年	日本国公開実用新案公報	1971-2015年	日本国実用新案登録公報	1996-2015年	日本国登録実用新案公報	1994-2015年
日本国実用新案公報	1922-1996年										
日本国公開実用新案公報	1971-2015年										
日本国実用新案登録公報	1996-2015年										
日本国登録実用新案公報	1994-2015年										
国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)											
C. 関連すると認められる文献											
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号									
X	JP 8-19507 A (富士写真光機株式会社) 1996.01.23, [要約]、[0012]、図1, 2 & US 5702349 A	1, 2									
Y	JP 62-8727 A (株式会社町田製作所) 1987.01.16, 第4頁左下欄第1行~右下欄第5行、第1, 4図 (ファミリーなし)	1-5									
<input checked="" type="checkbox"/> C欄の続きにも文献が列挙されている。 <input type="checkbox"/> パテントファミリーに関する別紙を参照。											
* 引用文献のカテゴリー		の日の後に公表された文献									
「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの		「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの									
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの		「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの									
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)		「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの									
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献		「&」同一パテントファミリー文献									
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願											
国際調査を完了した日 17.09.2015		国際調査報告の発送日 06.10.2015									
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号		特許庁審査官 (権限のある職員) 渡▲辺▼ 純也	2Q 3606								
		電話番号 03-3581-1101 内線 3292									

国際調査報告		国際出願番号 PCT/J P 2 0 1 5 / 0 7 1 3 2 0
C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリ*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2001-95747 A (オリンパス光学工業株式会社) 2001.04.10, [要約]、[請求項 1]、図 1 & US 6520908 B1	1-5
Y	JP 5-249384 A (富士写真光機株式会社) 1993.09.28, [要約]、図 1 (ファミリーなし)	5

フロントページの続き

(81) 指定国 AP(BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), EA(AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), EP(AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OA(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JP, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US

(72) 発明者 黒田 素啓
東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 3 番 2 号 オリパス株式会社内

(72) 発明者 安久井 伸章
東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 3 番 2 号 オリパス株式会社内

(72) 発明者 長田 礼佑
東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 3 番 2 号 オリパス株式会社内

(72) 発明者 目黒 親芳
東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 3 番 2 号 オリパス株式会社内

Fターム(参考) 4C161 DD03 FF07 FF11 FF45 GG15 GG22 HH21 JJ06 JJ11 NN10

(注) この公表は、国際事務局(WIPO)により国際公開された公報を基に作成したものである。なおこの公表に係る日本語特許出願(日本語実用新案登録出願)の国際公開の効果は、特許法第184条の10第1項(実用新案法第48条の13第2項)により生ずるものであり、本掲載とは関係ありません。

专利名称(译)	内视镜		
公开(公告)号	JPWO2016047266A1	公开(公告)日	2017-04-27
申请号	JP2016506394	申请日	2015-07-28
[标]申请(专利权)人(译)	奥林巴斯株式会社		
申请(专利权)人(译)	奥林巴斯公司		
[标]发明人	藤谷 究 鈴木 辰彦 黒田 素啓 安久井 伸章 長田 礼佑 目黒 親芳		
发明人	藤谷 究 鈴木 辰彦 黒田 素啓 安久井 伸章 長田 礼佑 目黒 親芳		
IPC分类号	A61B1/00		
CPC分类号	A61B1/00066 A61B1/00114 A61B1/00117 A61B1/00119 G02B23/2476 A61B1/0052 A61B1/015 A61B1/018 A61B1/05 A61B1/06 A61B1/2676		
FI分类号	A61B1/00.300.A		
F-TERM分类号	4C161/DD03 4C161/FF07 4C161/FF11 4C161/FF45 4C161/GG15 4C161/GG22 4C161/HH21 4C161/JJ06 4C161/JJ11 4C161/NN10		
代理人(译)	伊藤 进 长谷川 靖 ShinoUra修		
优先权	2014195590 2014-09-25 JP		
其他公开文献	JP5933872B1		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

内窥镜1具有要由使用者抓握的握持部10，具有第一纵轴X的操作部3以及从该操作部3到第一纵轴X的预定锐角。从操作部3的前端侧沿着第一纵轴X以第二纵轴Y的角度，要插入被检体内的插入部2和延伸线上的第三长度沿第一纵轴X延伸。电缆(4)具有沿轴线(Z)延伸并可拆卸地连接到外部设备的连接器(5)。

